



61st CRC Seminar

小林 覚 氏

Cardiovascular Health Research Center,
Sanford Research/University of South Dakota, USA

今回のCRCセミナーは、岩手連大OB (2002年修了) でアメリカ・サンフォード研究所の小林覚氏に講演をお願いしました。小林氏は、学位取得後に渡米し、2004年から今回お話しいただく自食作用と心臓病および糖尿病に関する研究を続けており、Journal of Biological Chemistry や Autophagy といった質の高い雑誌に優れた成果を発表なさっています。ご興味のある多くの皆様の参加をお待ちしています。

オートファジー・リソソーム経路の抑制が 糖尿病性心臓病を防止する

Suppression of autophagy-lysosome pathway
protects against diabetic heart disease

時間：2012年2月13日（月）16:00～17:30

場所：総合教育研究棟（生命系）1階 遠隔講義室

この研究の目的は「糖尿病がどのように心臓疾患を引き起こすのか」を解明することである。心臓疾患は、糖尿病で誘発される合併症の中で死因の6割を占める最も深刻な障害である。しかし、未だそのメカニズムは十分に解明されておらず、効果的な治療法も確立されていない。近年、オートファジー（自食作用）が糖尿病およびその合併症と深く関わるようになってきた。オートファジー・リソソーム経路を介した代謝制御は細胞の恒常性維持に必須である一方、細胞死を誘導するプロセスでもあり、諸刃の剣（a double-edged sword）として生体機能を保護することもダメージを与えることもある。今回、オートファジー・リソソーム経路が糖尿病性心疾患にどう関与するかについて培養心筋細胞の解析から明らかになったことをお話ししたい。

（問合先：上村 松生：uemura@iwate-u.ac.jp）

CRC は寒冷バイオフィロンティア研究センターの英名 Cryobiofrontier Research Center の略称です。